

■石川達三 小説家。戦前戦後を通じて、時事的社会問題に着目、その集団的悲慘を描いて、多くの話題作を生んだ。

いしかわたつぞう

日露戦争終 1905= 秋田県横手で、県立横手中学校の英語科教員石川祐助の三男に生まれる。

父の転勤や転職に伴って、秋田市、東京府荏原郡大井町、岡山県上房郡高梁町、岡山市などで育つ。

明治天皇没 1912= 7歳 :

第一次大戦始 1914= 9歳 : 母が死去し、  
21ヶ条要求 1915=10歳 : 父が再婚。

原敬首相暗殺 1921=16歳 :

関東大震災 1923=18歳 :

治安維持法 1925=20歳 : 卒業。上京して、第二早稲田高等学院に入学。\_(山陽新聞)に寄稿し始め、

金融恐慌 1927=22歳 : 早稲田大学文学部英文科に進学後、\*はやくも(大阪朝日新聞)の懸賞小説に当選。

共産党事件 1928=23歳 : 中退し、(国民時論社)に就職。

原稿持込みを行うも上手くいかず、退職。退職金を基に、移民の監督者として、

海軍軍縮条約 1930=25歳 : 船でブラジルに渡り、帰国後、(国民時論社)に復職。\_(新早稲田文学)の同人となり、

満州事変 1931=26歳 : \_「最近南米往来記」を発表。

五一五事件 1932=27歳 :

その後、(国民時論社)を再度退職し、嘱託として働きながら、

芥川直木賞 1935=30歳 : \*ブラジルでの体験を元に移民の姿を描いた「蒼氓」で第1回芥川賞を受賞、作家として認められる。

二二六事件 1936=31歳 : 結婚。「深海魚」。

日中戦争始 1937=32歳 : 「飼ひ難き鷹」\_「ダム建設で湖底に沈む小河内村を描く「日蔭の村」、(中央公論)特派員として南京戦従軍、

健保+総動員 1938=33歳 : 「(新小説選集)炎の薔薇」「あんどれの母」「流離」\_(中央公論)に、日本兵の残虐性を暴露した「生きてゐる兵隊」を発表、発禁処分を受け起訴されたが、

第二次大戦始 1939=34歳 : 「若き日の倫理」「智慧の青草」\*公判待ちの間に執筆した「結婚の生態」がベストセラーになり話題。その後、

大政翼賛会 1940=35歳 :

「(自選作品集)薫風」「盲目の思想」「花のない季節」「人生画帖」「大地と共に生きん」「愛の嵐」。新聞小説「母系家族」\_「転落の詩集」「蒼氓(全3部)」「三代の衿持」「武漢作戦」など旺盛な創作活動を続け、

日米開戦 1941=36歳 : 新聞小説「風樹」「使徒行伝」。軍の報道班員として徴用され、南方戦線に赴く。

..... 1942=37歳 : 海軍報道班員として東南アジアを取材。

創価学会検挙 1943=38歳 : 「赤虫島日誌」、

敗戦 1945=40歳 : 文学報国会実践部長として、\_敗戦を迎え、「生きてゐる兵隊」が出版される。

新憲法公布 1946=41歳 : 「心猿」。衆議院議員総選挙に立候補するが、落選。

新憲法施行 1947=42歳 : 「ろまんの残党」「望みなきに非ず」。日本文芸家協会常務理事に就任、

極東裁判決 1948=43歳 : 「母系家族」「風雪」「幸福の限界」。「石川達三選集全14巻」、

三大事件 1949=44歳 : 「群盲」「心の虹」「書斎の憂鬱」「泥にまみれて」「暗い歎きの谷」\_「長編「風にそよぐ葦」連載開始、

朝鮮戦争始 1950=45歳 : 「古き泉のほとり」「神坂四郎の犯罪」\_「風にそよぐ葦」完結。

独立回復 1951=46歳 : 欧州を旅行。

メデー事件 1952=47歳 : 「薔薇と薊の細道」\_「日本文芸家協会理事長となる(以後4年)。

TV放送始 1953=48歳 : 「最後の共和国」「青色革命」「地上の富」、

自衛隊発足 1954=49歳 : 「誰の為の女」「思ひ出の人」「悪の愉しさ」、

55年体制始 1955=50歳 : 「不安の倫理」「自分の穴の中で」「巷塵」「親知らず」、

国連加盟 1956=51歳 : 「悪女の手記」「自由詩人」「四十八歳の抵抗」、朝日新聞紙上で「日本の自由は逃避的」と批判。

なべ底不況 1957=52歳 : 「夜の鶴」\_「石川達三作品集全12巻」。総評・日教組の不当弾圧反対全国闘争を描く「人間の壁」連載開始、

美智子妃 1959=54歳 : 「骨肉の倫理」\_「人間の壁」が完結、

安保闘争 1960=55歳 : 「野育ちの鳩」「私の少数意見」「頭の中の歪み」\_「現代知性全集26「石川達三集」、

タイタイ病始 1961=56歳 : 「充たされた生活」\_「アジア・アフリカ作家会議東京大会会長を務める。

全国総合計画 1962=57歳 : 「僕たちの失敗」「愛の終りの時」、

東京リビュウ 1964=59歳 : 「傷だらけの山河」「誘惑」「稚くて愛を知らず」、

大学紛争始 1965=60歳 : 「花の浮草」「洒落た関係」\_「私ひとりの私」、

いざなぎ景気 1966=61歳 : 「私の人生案内」\_「金環蝕」など、話題作が多い。

美濃部都知事 1967=62歳 : 「約束された世界」、

霞ヶ関ビル 1968=63歳 : 「青春の蹉跎」「心に残る人々」、

全共闘ビーク 1969=64歳 : 「愉しかりし年月」「あの男に関して」\_「菊池寛賞」。

大阪万博 1970=65歳 : 「経験的小説論」「作中人物」「開き過ぎた扉」「人生の文学」、

トルコショック 1971=66歳 : 「解放された世界」「私の周囲・生活の内外」「現代の考え方と生き方」、「流れゆく日々1」以後毎年1冊、

日中国交回復 1972=67歳 : 「人物点描」「自由と倫理」\_「石川達三作品集」刊行開始、

石油ショック 1973=68歳 :

角栄金脈辞任 1974=69歳 : 「その最後の世界」\_「石川達三作品集」全25巻完結。

アランゴール事件 1975=70歳 : 「人間と愛と自由」。翌々年にかけて\_「日本ペンクラブ」会長。

田中角栄逮捕 1976=71歳 : 「生きるための自由」「青春の奇術」\_「日本芸術院会員」。

JALハイジャック 1977=72歳 : 「時代の流れとともに」「不信と不安の季節に」「独りきりの世界」、「流れゆく日々7」で終わる。

革新大敗北 1979=74歳 : 「包囲された日本」「小の虫・大の虫」「もともとも自由を…」、

貿易摩擦問題 1980=75歳 : 「七人の敵が居た」、

..... 1981=76歳 : 「星空」「裏返しの肖像」、

中曽根内閣 1982=77歳 : 「その愛は損か得か」「恥かしい話・その他」、

ドイツレポート 1983=78歳 : 「若者たちの悲歌」「いのちの重み」と、\*創作し続けて、

ジャンボ機墜落 1985=80歳 : 胃潰瘍から肺炎を併発して\_没した。